



登録チームによるリーグ戦は迫力満点!

あるだけ。そこで次兄と話し合い、「需要があるのに練習場がないなら造ろう」と一念発起。その後教室に通い、フットサルに触れるうち、すっかりとりになりました。「ピッチが小さい分ボールがすぐに回ってくるし、攻めと守りが瞬時に変わるからおもしろい。頭もすぐ使っんです」。

その魅力に確かな手ごたえを得てフットサル場経営の事業化を進める中、まず資金調達の壁につき当たりました。実績も担保もなく、銀行の融資担当者にフットサルの魅力や事業の将来性を根拠強く説き続けて交渉したり、友人知人に私募債を呼びかけるなどでどうにか資金を造成。大分の民営フットサル場「フットサル大分二〇〇二」からも事業のアド



ご自慢のピッチを前に笑顔がこぼれる大原久志さん

昨年9月、豊見城市渡橋名に県内民間初となるフットサル場「Vento Novo(ヴェント・ノーヴォ)」がオープンしました。代表の大原久志さんは、初心者にも気軽に楽しめるフットサルの魅力を県内に広めたいとそのPRに奔走しています。地域の人々、子供たちにもすっかり溶け込んでいるフットサル場を訪ね、お話を伺いました。

フットサルティーンズ
沖縄代表

大原久志さん

1955年、那覇市安里出身。首里高等学校、千葉工業大学を経て、東京の精密機器メーカーでプログラム開発に従事。帰郷後、父が経営する電気工事会社で人事・総務・購買を担当し、2005年退社。2007年、豊見城市に県内民間初のフットサル場を開設。フットサルティーンズ沖縄代表に就任。



フットサル」の魅力を広めたい。

愛する町のために、地域の元気のために、一生懸命活動している人がいます。このコーナーではそれを「沖縄のげんき仕掛人」と呼び、ユニークな活動を応援していきます!

年令や経験を問わず、誰でも楽しめる



豊見城市にオープンした
県内民間初のフットサル場

「こっちに蹴ってみよ〜」走れ〜! 「ゴール!」——緑鮮やかな人工芝が広がるフットサル場で、小学生たちが遊びながらボールを蹴っています。それを笑顔で見つめるのは、「フットサルティーンズ沖縄」代表の大原久志さんです。

十一人で行うサッカーと違い、フットサルは五人制で行われるもの。二〇m×四〇mのコンパクトなピッチ(競技場)で跳ねの少ないボールを使い、二m×三mの小さなゴールを狙います。「スライディングやタックルが禁止なのでケガの心配が少なく、女性や子供でも安心してプレイが楽しめます」と魅力を語る大原さん。学



楽しそうにボールを追う子供たち

バイスを得るなど、事業計画の精度も上がり、約一年がかりでフットサル場の開設にこぎつけました。



沖縄の子供たちを
フットサルで
輝かせたい!

大原さんは県内にフットサルをもっと浸透させようと、幼稚園や小学校へピッチの利用を呼びかけたり、フットサルで県民の肥満解消を提案したり、観光客向けの合宿プランを考案するなど意欲的です。

また、ボールを思いきり蹴って、ピッチを走ることで、子供たちの表情が生き生きと変わる瞬間を目の当たりにし、フットサルにいろいろな可能性があると感じています。外国の



照明を完備した人工芝のピッチは夜11時まで利用可能

優秀なサッカー選手たちは、子供のころにフットサルでフットワークを磨いている場合も多く、「沖縄の子供たちも小さい頃から優秀な指導者と質の良い練習場があれば、充分全国で通用する」と力説します。「いずれは小学生のホームチームを作りたい。フットサルで子供たちを輝かせられたい」とも。また、フットサルの全国大会「フリーグ」の大会をいつか沖縄で開催したいという大きな夢も温めています。

ピッチを駆け回る子供たちを眺めながら、「子供たちの笑い声が沖縄の元気」と語る大原さん。地域の子供たちを温かく見守るお父さんのような人柄も、フットサル場の大きな魅力となっているようでした。



「フットサルを気軽に楽しんで欲しい」
その思いが支えた二年

実は大原さんは、二年前までフットサルはもとより、サッカーの経験もありませんでした。きっかけは二〇〇五年、不動産業を営む次兄の元に「空き倉庫をフットサルの練習場として貸してほしい」と依頼があったことでした。当時、県内では南風原町と石垣市に公営のフットサル場が

生時代にサッカーをしていた人が、体力がさほどなくても続けられるフットサルへ移行することも多いのだとか。県内でもその裾野は広がっており、ティーンズ沖縄には現在三十六チームが登録。土日・祝日にはリーグ戦も開催されてにぎわっています。



●フットサルティーンズ沖縄 <http://www.futsal-thidain.com/> ☎098-851-2020

沖縄県広報誌 平成20年1月1日発行第32巻1号通巻388号

企画・編集 沖縄県知事公室広報課
発行 沖縄県知事公室広報課
〒900-8570
那覇市泉崎1-2-2
電話 (098) 866-2020

制作・印刷
株式会社エマインタープライズ
〒900-0006
那覇市おもろまち1-5-26
電話 (098) 868-9332

編集後記
新年明けましておめでとうございます。早いもので平成20年の幕開けです。「一年の計は元旦にあり」といいますが、今年の目標は決まりましたか?私は昨年から風邪をもちこして、健康の大切さを実感しています。今年は、脱メタボ・体力づくりに励みます(R)

新年、明けましておめでとうございます!今年もよろしくお祈りします!今年の目標はチャンスに強いバッテリーに!です。ところで、昨年12月に行われたNAHAマラソンに参加しました。道沿の応援はすごい!元気をもらって無事に完走!今年もガンバルぞ!!(ノア)

